

平成29年度 校内研修 中間協議会 資料

今年度の中間協議会はワールドカフェを用いて教師同士が思考を活性化し、「意見を出し合って考える」、「わかりやすく情報をまとめて伝える」など様々な活動を介してより深く理解を進めるアクティブ・ラーニング（学習者主体の学習手法の一つであり、学習者が能動的[アクティブ]に学習[ラーニング]に参加する学習法の総称。最近の日本、いわゆる知識詰め込み+問題練習[演習]授業では「新しい学力観」の目指す「自ら学ぶ力」をつけることができないという反省から推進されており、2016年策定、2020年実施の学習指導要領の改訂に盛り込まれる）に基づいた会を行う。

ワールドカフェについて

○会議のような場ではなく、カフェにいるようなリラックスした状態で話し合いをしたところ、良い話し合いができたことから「ワールドカフェ」と呼ばれるようになった。

参考図書：アニータ ブラウン/デイビット アイザックス/ワールドカフェ・コミュニティ 著
～ワールド・カフェ的会話が未来を創る～

ワールドカフェでは立場や年齢などの垣根を越えて井戸端会議をするようなリラックスした状態で様々な意見を出し合っただけだと思います。

※ホスト（テーブルに残って自分たちの研究グループについて説明、話し合ったことを伝える人）は必ずしも話上手な教師とは限りません。グループ研究の説明や最後の発表の際などホストが『話し、伝えようとする気持ちなどを尊重』してください。何事も経験が教師としての専門性を高めるきっかけとなります。

ワールドカフェの進め方

事前準備 各研究推進グループに模造紙を事前配布する。そこに『グループ研究のテーマ』と『グループ研究の中で悩むこと1つ（支援方法などの手立て、アセスメント方法、検証方法など）』を事前に記入して中間協議会に臨む（説明に必要な資料等があれば持参してください）。

① それぞれの研究グループに分かれてクジを引く（1～7）

必ず1～7の数字を誰かが持っていることが条件になる。グループによって人数が少ないところは1人で2枚の数字をもっている場合が出てくる。人数が多いところは、同じ数字の人が二人になる場合があることを、ご了解ください。

② 説明

第1セッション

15分

クジで当たったホストを残し、自分の所属学部以外のワールド（テーブル）へ移動する。移動後、ホストが自分たちの研究しているテーマや設定理由、仮説、グループ研究を通して悩むこと1つ等を説明する。（5分）それらに対し、ワールドごとに3分程度で教師個々で考え、付箋に記入。その後、一人一人自分の思い（意見）を発表（1分ずつ）し、模造紙に貼る。ホストは同じような意見等については○で囲んでグルーピングをするなど発表や次の旅行者（移動）への説明に備える。

↓

第2セッション

15分

ワールドに一人残り（本来のワールドカフェはここで前セッションのホスト以外の旅行者がそのワールドに残り、次の旅行者に備えて説明できるようにするが、

ここでは前セッションのホストが残る)、所属学部以外の別ワールドへ移動。このセッションではホストは前セッションのようにテーマ設定等の理由や悩む点について同様に説明するが、それらに加えて、前セッションで旅行者よりそれらに対してどのような意見が出たかを簡潔に説明する(5分)。以後は同様。



第3セッション 最初のテーブルに戻る(本来、時間があれば旅行を増やす)。旅人から出たアイデアをホストが紹介。
5分



アイデアのまとめ 印象に残った内容を付箋等を移動させたり、模造紙にペンで文字を加えたりして掲示に備える。
5分

掲示

各ワールドより掲示された模造紙を自由に閲覧する。オープン教室の後方、あるいは廊下側の壁に掲示する。

5分

ワールドカフェのエチケット

- ・理解するためによく聴きましょう。 ・問いに意識を集中して話し合しましょう。
- ・あなたの考えを積極的に話しましょう。 ・他のメンバーとのアイデアをつなげましょう。
- ・あなたの考えと経験に基づいて話し合いに貢献しましょう。
- ・メンバーの皆さんが平等に話せるように、話は短く簡潔にお願いします。

ワールドカフェの一般的な効果

- 1 リラックスした場により以下の拡がり強化
 - ①関係性、つながり
 - ②一体感、フラットな意識
- 2 フラットな話し合いにより以下が期待できる
 - ①アイデアのつながり、気づきの連鎖
 - ②暗黙知の共有・明確化
 - ③ビジョンや想いの共有

※発散的なダイアログ(新しい話し合いの仕方・手法)のプロセスを各テーブルの場だけでなく、旅人の存在によりよく『拡散する』効果をもつ。

⇒従来の主たる学習形態である講義形式は、まとまった知識情報を伝達するには便利だが、聴き手はある程度以上の時間は集中できない。また、すでにもっている知識や技能と統合していく余裕がないため、記憶にも残りにくく応用もしにくいという欠点がある。しかし、これらの話し合いは、前述した学び手がアクティブに学習を展開することで新学力観「自ら学ぶ力」を身に付けることができる。今後、特別支援教育における児童生徒たちに、このような力を育成することが期待されている。

新しく中間協議会をこのような形で行います。事前準備等をよろしくお願いいたします。

(研修部)